

水産多面的機能発揮対策事業

増養殖環境課 林 芳弘

1 目的

海藻の捕食者であるウニ類を人為的に除去することにより、特にホンダワラ類の生息密度の増加が期待できる¹⁾ことから、県内各地で地元組織がウニ除去による藻場造成に取り組んでいる²⁾。そこで、これらの活動を支援するため、当該地域における藻場調査を実施した。

2 方法

(1) 調査場所

調査海域（所在市町村）及び調査日は、以下のとおりであった。各海域の調査定点は、前年度事業報告書²⁾に詳述したとおり、ウニ駆除活動の実績がある。

1) 手結（香南市）	2015年10月29日
2) 池ノ浦（須崎市）	2015年12月1日
3) 久通（須崎市）	2015年8月4日
4) 上ノ加江（中土佐町）	2015年7月3日
5) 志和（四万十町）	2016年1月13日
6) 興津（四万十町）	2016年1月27日
7) 上川口（黒潮町）	2015年12月18日
8) 田野浦（黒潮町）	2016年1月21日
9) 窪津（土佐清水市）	2016年2月18日
10) 竜串（土佐清水市）	2016年3月22日
11) 橋浦（大月町）	2016年3月8日
12) 大海（宿毛市）	2016年3月9日

(2) 調査方法

単位面積に占める海藻生育範囲の割合を被度（％）として、種類ごとに記録した。一辺 1m の方形枠を海底に設置し、枠内における被度を目視で測定した。被度の測定精度は 10％とした。海藻の種類は、現場で目視により判断した。その際、可能な限り下位の分類群まで同定したが、基本的にはホンダワラ類、カジメ、テングサ類、有節サンゴモ類、無節サンゴモ類及びその他に区別した。潜水調査には潜水器を用いた。

3 結果

調査定点ごとの海藻被度を図 1 に示した。概ね 50％を超える被度でホンダワラ類が出現した海域は、上川口及び大海に限られた。カジメは田野浦のみで出現した。テングサ類も出現海域が限定的であり、また、被度も低かった。有節及び無節サンゴモ類は広い範囲でみられたが、ほかの海藻に混じって出現するケースが多く、サンゴモ類しか生えていない調査定点はほとんどなかった。その他の海藻類は、いずれも一年生の小型海藻であり、それらはほぼ全ての海域で出現した。

4 考察

今回調査した海域には、ホンダワラ類やカジメなどの大型海藻は少なかったものの、小型の海藻類は広範囲で見られたことから、ウニ除去は磯焼けの軽減に有効であると考えられた。したがって、今後調査区画を再検討し、その効果を定量的に評価する必要がある。

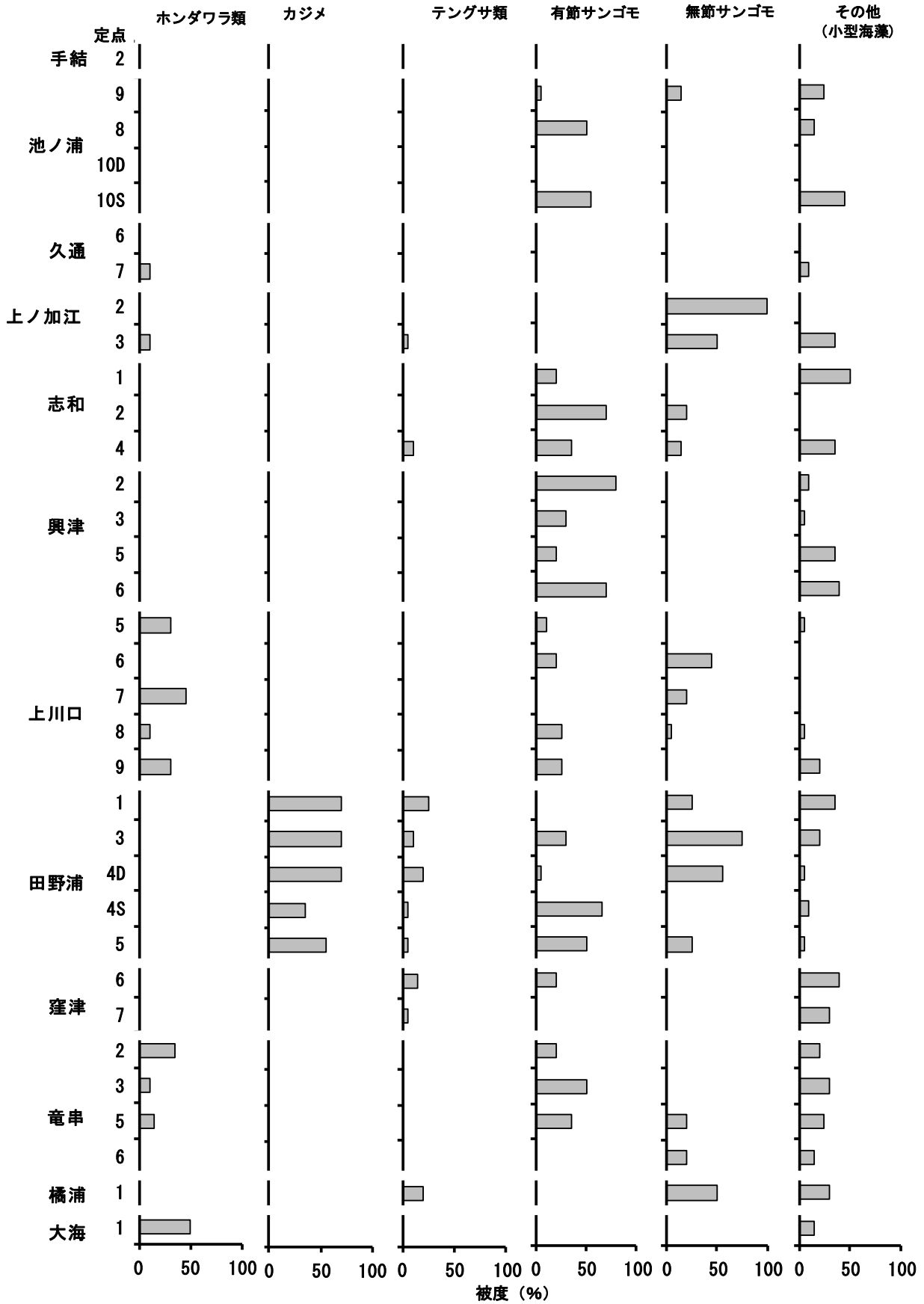


図1 海域ごとの海藻被度
 定点番号の後ろに D あるいは S が付いている場合は、同一定点の深所と浅所でそれぞれ調

査したことを示す。

5 参考文献

- 1) 田井野清也．土佐湾の環境変動に対応した藻場の維持回復に関する研究．平成 15 年度高知県水産試験場事業報告書 2005；96-107.
- 2) 田井野清也．磯焼け等沿岸域機能回復支援事業．平成 26 年度高知県水産試験場事業報告書 2016；159-176.